

第10回市民と議会の意見交換会開催報告

1. 日時

令和5年7月16日（日） 午後2時00分 ～ 午後3時30分

2. 場所

バンビオ1番館 2階 市民ギャラリー

3. 説明員

副議長	小原明大（司会）		
議会運営委員会委員長	進藤裕之		
議会運営委員会委員	福島和人	広垣栄治	
	上村真造	八木浩	

4. 来場者

市民（22人）

報道（0人）

5. 出席議員（10人）

宮小路 康文	干場 志都恵	中村 亮太
川口 良江	中村 歩	富田 達也
大伴 壘	石井 啓子	中小路 貴司
田村 直義		

6. その他の出席者

議会事務局（6人）

7. 内容

(1) 開会の挨拶〔小原明大副議長〕

(2) 議会改革についての報告〔進藤裕之議会運営委員会委員長〕

(3) 議会改革、議会についての参加者からの質問、意見（抜粋）

○市民

【同性婚の法制化に関する議論の促進を求める意見書について】

同性婚の法制化に関する議論の促進を求める意見書を、令和2年9月23日に立法府と内閣に提出されている。私は同性婚に反対の立場であり、同性婚が制度として導入された場合、社会的に何点もの問題があると考えている。この意見書に対し全員一致ということになっているが、同性婚を制度として導入したときに、起こるであろう問題点はあるか。

○小原明大副議長 意見書については、議員政策研究会の性の多様性社会研究分科会のメンバーが発議して全会一致で可決されたが、そのメンバーや賛成された議員には、その時点で問題点が特にあるという論議はなかった。意見書としては、議論の促進を求める意見書であるため、そういった御意見も踏まえながら、政府として立ちどまるのではなく、議論を促進していただきたいという内容であり、その点で全員一致したのではないかと思っている。議論を促進せよという意見書であるため、問題点が何かしらあると思っていた議員もいたかもしれないが、やはり、性の多様性が認められる社会を実現するために議論を促進すべきだということで、全員が乗られたのではないかと思う。

○市民

【議員定数削減について】

議員定数について、だんだん減らされているが、他自治体を見ていると議員を減らすこと自体が目的になっているような風潮もあるように思う。議員を減らすことで市民サービスを切り下げることが押し付けるために、わざわざ議員を減らしているという側面が強いように感じる。長岡京市議会が議員定数削減についてどういう論点というか、客観的な根拠があるのか。それとも減らすこと自体に意義を見出しているのか。客観的な根拠がもしあるんだしたらどのような根拠でこの人数が決まっていたのか教えてほしい。

○進藤裕之議会運営委員会委員長 議員定数に関しては、従来議員定数は26名だった。それが一旦2名減で24名、そして前回の選挙で22名ということになったが、基本的にはこの定数を定める条例に、全員一致で賛成をしたという状況ではない。この議員定数の在り方は、議会運営委員会の場で議会改革を論議していたときに、各会派から様々な意見が出た。現状のままでいくべし、またその定数の人数にしても、26名の当時、2名減、6名減まであったと思うが、そういった論議も進めていった中で、議会としての統一した見解という形はない。ただ、条例というものが、定数減というものが過去2回出されて、それが賛成多数で可決をされたため、現在22名になってい

るというふうに御理解いただきたい。減らすことに対して、是とする会派もあれば、非とする会派もあるため、統一した見解というものをこの場で言うと、各会派が意見を出しあう形になる。各会派の定数に関する意見というものを、議会のホームページの議会改革の経過のところに掲載しているので、そちらを御覧いただきたい。

○市民

【AIによる音声認識システムについて】

AIによる音声認識システムについて、今回試験導入され、誤変換もあったがおおむね分かった。普通の方が話すとき30分で250文字から300文字くらい。要約筆記は1分間で60文字が限界であるため、どうしてもそこで切れてしまい、話が追いつかないという問題があった。議員の皆さんが丁寧に話しているつもりであっても、話のつじつまが合っていないんじゃないかというところがあると思った。自分で気が付かないうちに言い回しが変わったり、あるいは早口になったりしている、こういったことも結構あるなと感じた。1日6時間くらいぶっ通しでいくことになるため、大本の口述がないと追いつかないかもしれないと感じた。音声認識そのものが全部できているわけではないため、まだしばらく要約筆記と手話通訳を入れてほしい。

○進藤裕之議会運営委員会委員長 今回初めて、6月定例会の一般質問でAIにより音声を文字化するというシステムを試験的に導入した。一般質問という場においては、事前に原稿等を文字化して表示をするという方法も可能だとは思う。それで、誤字脱字のないような形で表記をするというのも、不可能ではないと思うが、実際に登壇した場において、自分の用意した原稿どおり言わない可能性もあるため、AIを活用した文字起こしというものをどんどん進めていくべきではないかと考えている。議員個人の差が少し出ている部分もあったが、おおむね正確に変換をしていたと捉まえている。要約筆記や手話通訳は希望があれば用意できるため、議会事務局に事前にご連絡いただきたい。今回やらせていただいたAIによる音声認識に関しては、9月定例会以降もぜひ、継続していきたいと考えている。

○市民

【議員の聴く力について】

議員定数の削減も含めて、定数の在り方について、改めて議員それぞれの認識というものを確認したい。人口の割合に応じた議員定数の在り方と

いう考え方があって、長岡京市は人口微増が続いてる中で議員定数が減ってきているということで、本当にそれで議員一人一人が市民のために仕事ができるのか。現に、今市民3,700人、3,800人ぐらいに対して、議員1人という割合である。ある政党は、議員定数を20名に減らせというようなことも言っているが、そうなると、議員1人に対し、市民を4,000人以上抱えることになる。果たしてそれでちゃんとした仕事ができるのかというような不安がある。去年の意見交換会の場で同じ質問をした際、議員一人一人の聴く力が必要だと質の話をされたが、聴く力というのはなんなのか。議員は選挙のときしか顔を見ないというようなことはよく言われているが、顔ぐらいは議会や、常任委員会、こういう意見交換会に行ったら見られる。日頃どれだけ市民の方々の意見を聴くために地域を練り歩いているのか。その視点で見ると、近くに住んでいる議員の顔しか見ないという感じがする。聴く力というなら、日頃どれだけ市民の方々の意見を聴くために、地域を練り歩いているのかというような、その辺の認識を確認したい。

- 進藤裕之議員** 輝は1月から補選で議員が1人増えて、5人いる。輝の意見としては、去年と同じで全く変わっていない。我々は定数としては22名、これが最適と考えている。聴く力という部分に関して言えば、それぞれの議員がそれぞれのいろいろなバックボーンを持って出てきてるとい部分があるため、そういったところも活用しながら、いろいろな声を聴かせていただいている。
- 広垣栄治議員** なかなか聴く力というところで言うと、全部が全部聴けていないとは思いますが、共産党としては議会だより等の意見を出したりして、意見も聴取している。そういったものを通して、意見をフィードバックしてもらいたい。
- 福島和人議員** 公明党は定数に関しては前回と同じ。市民の声というのは、やはり通信とかSNSとか、そういう媒体を使いながら、1人でも多くの方の声を聴く努力はしているが、全域を回れるかというとな難しい。公明党は2人しかいないため、この広い長岡京市を2人で動かさせていただいている。
- 上村真造議員** 平成西山クラブは、議員それぞれがいろいろな地域性を持っているため、その地域をバックボーンに、保守として十分に活動させていただいている。定数に関しては、やはり適正な議員定数っていうのはなかなか難しいと思う。ただ、近隣市町の動向も踏まえながら、人口割、面積割等々で、今22名というふうになっているのが、ベターであるというふうに認識している。
- 八木浩議員** 平成自民クラブは、聴く力という面では大体地域柄を含めて、我々保守系議員では、例えばより身近な自治会であったり、校区であったり

り、さらには後援会組織を作り上げておられて、長岡京市全域にいろいろと支援して下さる方がおられるため、そこからそういう情報とか、いろんな今の課題とかを取り入れて、地域全般の課題として議論をさせてもらっている。

○市民

【一般質問での一問一答方式について】

議会で行政に対する質問が再質問だけで、答えられて終わってしまうと、議員が質問している内容が深まっていないと思う。傍聴していても、面白くないという感じがする。他市では制限時間を決めて、その制限時間の中でやりとりをして、そのテーマについて深めていくということをしているため、そういう点も検討していただきたい。

進藤裕之議会運営委員会委員長 一般質問に関して、現在、議会改革特別委員会で、今までの一括質問方式に加えて、いわゆる一問一答方式というものも導入すべきではないかという論議をしている。議会改革特別委員会から、ちょうど前半は2年間でまず任期が終わるため、9月議会に報告として上がってくるぐらいの段取りで今進めている。この一般質問における一問一答の在り方というものは、やはり特別委員会でもいろいろな論議が出てきた。それをどうするかというのは、10月以降の次の議会運営委員会の場での論議というふうになるかと思うが、現在論議しているということで御認識いただければと思う。

(4) グループトーク

(5) 閉会の挨拶 〔小原明大副議長〕